

対話を通じてがん患者らの心に癒しを!

「がん哲学外来」提唱者 樋野興夫先生が講演



患者たちに希望の言葉を語りかける樋野先生

「がん哲学外来」は、がん患者や家族、医療関係者らが、お茶を飲みながら対話を行うサロン形式のカフェで、順天堂大学医学部教授の樋野興夫先生が2008年に開設しました。5月8日には、さいたまメディカルタウンで、樋野先生を迎えてのシンポジウムが、がん哲学外来・まちなかメディカルカフェ in さいたまの主催で開催されました。



パネルディスカッションの様子

樋野 興夫(ひの おきお)

1954年島根県生まれ。順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授、一般社団法人がん哲学外来理事長。がん研究会学術賞、高松宮妃癌研究基金学術賞など受賞。著書に「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」「あなたはそこにいるだけで価値ある存在」など多数。

今や2人に1人ががんになる時代だと言われています。そうした中、がん患者やその家族の不安を和らげる「がん哲学外来」という活動が広がりをみせています。提唱者の樋野先生は、がん患者と医師の間を埋めるべく、対話を通じて病気の不安や悩みを解消することを目指し、2013年には一般社団法人がん哲学外来を設立。以来、趣旨に賛同した医師や看護師などが続々とメディカルカフェを立ち上げ、「がんについて、人生について」自由に語り合う場が全国に広がっています。

さいたま市大宮区にある複合医療施設さいたまメディカルタウンを会場としカフェを運営するがん哲学外来・まちなかメディカルカフェ in さいたま(丸倉直美代

表)もそのひとつ。2年前からカフェを立ち上げ、これまで約200名の参加者が訪れています。21回目の開催となったこの日は、がん患者やその家族、看護師、ケアマネジャーなど約50名が集まり、樋野先生の基調講演やパネルディスカッションに熱心に耳を傾けていました。また、参加者たちは8つのテーブルに分かれてお茶を飲みながら自由に語り合いました。

樋野先生は、「がんであっても尊厳を持って人生を生き切ることのできる社会の実現を目指し、より多くのがん患者が、垣根を越えた様々な方との対話により、病気であっても、病人ではない、安心した人生を送れるよう寄り添っていきたいです」と、がん哲学外来の意義を語っています。

がん哲学外来・まちなかメディカルカフェ in さいたま



テーブルを囲んで語り合うがん哲学外来メディカルカフェの様子

- 日時 / 毎月第3日曜日(※) 10:00 ~ 11:30
- 会場 / さいたまメディカルタウン内
カフェラウンジマハロ
(さいたま市大宮区天沼町2-759)
- 申込 / 電話・FAX : 048-677-2551(事務局 山本)
mail : gantetsu.in.saitama@gmail.com



(※)変更の場合あり。事前に事務局へご確認ください。